



広島市立安佐市民病院広報紙

— 第29号 —

〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目 1-1

TEL : 082-815-5211 (代)

<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>



広島市立安佐市民病院 院長
多 幾 山 渉

ごあいさつ

みなさん、昨年四月より病院長を勤めております多幾山です。いつも、安佐市民病院情報誌「まめでがーんす」を御愛読いただき有難うございます。平成二十三年度始めを記念して一言「ごあいさつ」申し上げます。

ご存知のように、日本は世界でも経験のない少子高齢化社会を目前にしています。安佐南区はまだ人口が増加していますが、安佐北区では人口減少と高齢化が始まっています。人口減少は、日本の経済活力に大きく影響し、昨年、GDP世界二位の座を中国に奪われました。税収入は減少し、国や地方自治体の借金は増加の一途をたどっています。なんとも絶望的で元気の出ない状況です。

安佐市民病院の患者様も以前より高齢化が進んでいます。当院の診療圏が広島市北部と広島県中山間部であり、まさに高齢化の先進地であることが主な原因と思われる。外科手術を受けられる患者さんも高齢化が進み、九十歳代も稀でなくなってきました。以前は、このような高齢者はリスクが高く、手術することが少なかったのは、が、最近、珍しくなくなったのは、

医療技術が進歩したことも原因のひとつですが、高齢者の身体機能があり低下していないことが主な原因なのです。つまり、元気な高齢者が多くなっているのです。医学研究分野では三十〜四十年前には六十歳以上を高齢者として扱っていたと記憶していますが、今では七十五歳以上とすることが多くなってきたのも、その証拠のひとつです。このように、元気な高齢者が増えてきているので、今からは、高齢者を主体に置いた元気な社会作りを模索していく必要があると思います。高齢者が引退して引きこもるのではなく、積極的に地域社会活動に参加し、仕事を続けられ、経済活動を活性化させる高齢化社会先進国を目指すべきなのです。今後、世界中で続々と高齢化が進むと予測されていますが、高齢化社会の世界一の先進国として、世界をリードし、新しい経済価値を生み出していけるのではないのでしょうか。このように考えると、明るい気持ちにもなれますね。

元気で生き生きとした高齢化社会を目指し、安佐市民病院は、お年寄りを含め、地域の人々の元気を支える地域の中核病院として、今後ますます進化していくよう頑張ります。今後とも、ご理解と応援の程よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、読者の皆様の今後ますますのご健勝を祈念してご挨拶いたします。

平成二十三年四月吉日



【病院機能評価】

安佐市民病院の理念と基本方針

理 念

- ・愛と誠の精神をもって医療を提供します。
- ・地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得 にもとづいた医療を行います。
2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。



男性更年期障害 について



泌尿器科部長 三田 耕司

I. はじめに

「加齢に伴う血中テストステロンの低下に基づく生化学的な症候群」を海外ではLate onset hypogonadism (LOH)と呼び、我が国では男性更年期障害がこれに相当します。近年、この病名は一般に認識されるようになりましたが、その病態はいまだに解明されていない部分が多いようです。

男性更年期障害に対する治療としてはテストステロン補充療法が挙げられ、米国では使いやすい貼り薬や塗り薬など様々な形態の薬剤が登場し、その需要は爆発的に増加しています。

本号では我が国の男性更年期障害の診断と治療について解説いたします。

II. 検査と診断

1) 血中テストステロン値の測定

血中テストステロンのほとんどは、アルブミン、SHBG(Sex Hormone Binding Globulin)などと結合した形で存在しますが、1%~2%は結合していない遊離型で存在しています。生体内の変化に応じて常に均衡するように結合と解離を繰り返していますが、生物活性を有するのは遊離型テストステロンです。

我が国では日本泌尿器科学会、日本Men's Health医学会が中心となり、1,172人の健常人ボランティアを対象とし、日本人成人男性の血清総テストステロン値および遊離型テストステロン値をRIA (Radioimmuno assay) 法によって測定し、その基準値設定の試みをしています。その結果、総テストステロン値は年齢による変化がほとんどみられないのに対し、遊離型テストステロン値は年齢が高くなるとともに低下することが示されました。加齢とともに低下する遊離型テストステロン値と、男性更年期障害は深い関わりがあるものと思われますが、RIA法によって得られた遊離型テストステロン値がその診

断に適切か否かは今後も検討が必要です。

2) ホルモン補充療法を行うための基準値

日本人におけるホルモン補充療法の推奨値については、20歳代の日本人成人男性遊離型テストステロン値の平均値の下限值である8.5pg/mlを正常下限値とし、さらに8.5pg/ml以上であっても20歳代の平均値(Young Adult Mean, YAM)の70%値である11.8pg/ml未満までの症例を男性ホルモン低下傾向群として治療の対象とすることが提案されています。YAM値の考え方は骨粗鬆症の治療基準にすでに導入されていますが、男性更年期障害に対するホルモン補充療法の推奨値として適当か否かは今後検証する必要があります。

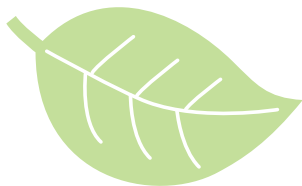
血中テストステロン値は男性更年期障害の診断において最も根本的な検査ではありますが、これのみでホルモン補充療法の適応か否かを判別することは難しく、たとえば、うつ病患者では血中遊離型テストステロン値はコントロールに比較し低いことが報告され、さらに男性更年期障害を主訴として来院する症例の多くが、抑鬱、睡眠障害、性欲減退などのうつ症状を有しています。男性更年期障害の診断に用いられている質問紙とうつ病の診断に用いられる質問紙との相同性も指摘され、男性更年期障害とうつ病との判別が困難になっています。

Ⅲ. 治療（男性ホルモン補充療法）

生物活性を有する血中テストステロン値の低下が全身状態や筋力、骨格にも影響を及ぼすと考えられており、一方、LOHにテストステロン製剤を投与すると、気力の回復、筋力・骨塩量の増加、性機能や性行動の改善効果がみられ、中でも筋力・骨塩量に対しては長期にわたって有効であり、うつ状態の改善も報告されています。

テストステロン補充療法の目標は血中テストステロン値を正常化しwell-beingを改善することにあります。しかし、高齢者へのテストステロン補充療法においては前立腺癌、多血症、睡眠時無呼吸症候群、肝障害などの発現の危険性を十分に認識し、継続的なモニタリングが必要です。

患者さんには得られる利益と危険性について十分に理解していただき、特に前立腺癌は男性ホルモン依存性癌でもあり、テストステロン補充療法中は直腸内前立腺触診、血中PSA値の定期的な検査を行い、その上昇がみられれば精査が必要となることもご理解ください。



外来化学療法室(化学療法センターに改称) 移動についてのご案内

中央処置室の採血室の奥の部屋で点滴治療を受けておられる患者さんに朗報です。

築30年を過ぎた当院南館は、工事の音が煩かったり、通行止めが急に出来たり、今まで当たり前と思っていた廊下が急に明るくなったと凡そ1年前くらいから部分的に少しずつ“きれいに”変貌しています。

この工事の一環として外来化学療法室が今年度末には化学療法センターと名称も一新し現在の暗い部屋から2階の南の窓に面した所に移動することになりました。

この病院が誕生した30年前には外来で化学療法を受ける患者さんは想定されていませんでした。ところが時代の要請と薬の発達により多数の患者さんが入院治療から外来治療へと移行しています。当院もこの流れの中で職員用の場所の転用や機械の移動により今の場所をやっとの思いで確保し治療を行ってきました。しかしながら手狭であることが現時点でもすでに致命的欠陥となり始めていましたので、本年度から厚生労働省より“がん診療連携拠点病院”の指定を受けたのを機会に現在の部長室を取り壊して化学療法センターを新たに作ることにしました。

TV番組のピフォアアフターの様にはいかないかもしれませんが、どうか新しくなる化学療法センターに期待して下さい。

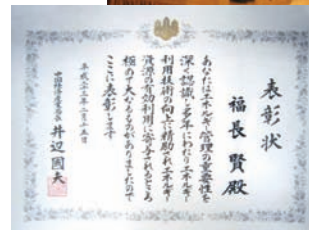


外科主任部長
平林 直樹



「平成22年度エネルギー管理功労者 中国経済産業局長表彰」を受賞しました

事務室庶務係の施設担当である福長 賢が「平成22年度エネルギー管理功労者中国経済産業局長表彰」を受賞することになり、平成23年2月15日に開催された表彰式に出席しました。永年にわたる社内外における省エネルギーの推進活動が高く評価されたもので、当院においても、対平成17年度比で平成22年度末までにエネルギー使用量（原油換算）を850 kL（25%）削減できる見込みであり、大きな成果をあげています。この表彰は、昭和55年（1980年）から毎年実施されていますが、病院職員が表彰されるのは全国初の快挙です。



患者必携

がんになったら手にとるガイド



編著: 国立がん研究センター
がん対策情報センター
Gakken 1,200円

がん患者さんに必要な情報を網羅した「患者必携」が本になりました。

いきなり「あなたはがんです」と言われたら... がんと診断されたときの心の動揺、自分らしく向き合うための方策、がんについて知っておくべき事柄、経済的負担と支援、より良い療養生活のためのヒント、これらについて詳細に解説されており、患者さんや御家族を支えるための最も信頼できる一冊です。

皆さん、是非一度読んでみてください。



お知らせ



3/22 診察開始
朝まで待てない、今すぐ診てほしい...
そんな突然のトラブルに!

**安佐医師会
可部夜間急病センター**

内科 受付: 19:00~22:30 月~金

15歳以上の大人を対象に
内科の患者を診察します。

原則として応急処置のみとし、
お薬は1日分をお出しします。

受診後は、翌日かならず
かかりつけ医を受診してください。

診療時間: 内科(15歳以上)
月~金曜日(19:30~23:00)
受付: 19:00~22:30
休診: 土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)
診療医: 安佐医師会 会員医師

**安佐医師会
可部夜間急病センター (内科)**
TEL.082-814-9910
広島市安佐北区可部4丁目11-28 可部駅前ビル2F
<http://www.urban.ne.jp/home/asa14/>



乳がん患者会紹介



南5病棟
看護師
弓場 真理



当院外科南5病棟では、プレストケアチームを中心に、乳がん手術後1~2ヶ月の患者様を対象とした「元気の会」という患者会を2002年に発足しています。この会は、退院後のソーシャルサポートの一環として、医師、看護師(病棟、中央処置室、外科外来)、薬剤師、栄養士、和みの会(患者会)の参加により、情報提供、退院後の生活指導、手術後補助療法の副作用の対処法、患者様同志の交流や情報提供の場を提供しています。現在、毎月第3水曜日に患者会、年1回の和みの会の親睦旅行や患者会総会を開催し交流を図っています。

患者会においては、現在出ている症状、誰にも聞けず困っていること、食生活や薬剤(効果、副作用、サプリメント)などについての質問が多くあり、それぞれの内容について理解しやすく助言を行っています。また、希望により医師、薬剤師、栄養士により勉強会を実施し、内容に好評を得ています。

2000年から乳腺手術用のクリニカルパスの導入にとともに、入院期間が短縮(最短3泊4日)され、入院期間中、病棟看護師は患者様との関わりが少ないのが現状です。そのため病棟看護師は、患者会の中で患者様が思いを伝え、発言できるように有効なサポートを得られるように関わっています。今後も看護師として、学会参加などにより専門的知識を高め、スキルアップし、患者会の継続を図っていきたいと考えています。



今年もやります 健康祭り



第8回 安佐市民病院

健康祭り

6月25日(土) 10時～14時

☆健康チェック
☆健康相談
☆骨密度測定
☆メタボ診断
☆新鮮野菜市
☆お薬相談
☆景品付きゲームコーナー
☆必ずもらえる参加賞

広島市北部障害者デイサービスセンターの皆様による作品



第8回健康祭りを、6月25日に開催します。
今回は医療体験コーナー「ブラックジャックによろしく!! Part II」を新設予定です。
医療器具を見て触って、医療技術の進歩を体験していただきます。
多くの皆様のご来場をお待ちしております。

